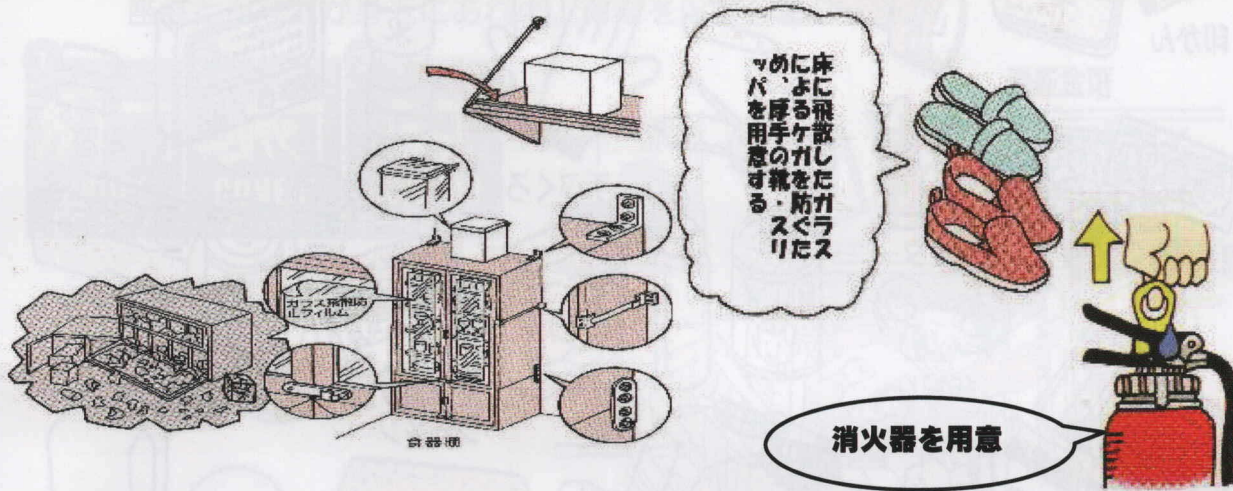


そなえガイド（抜粋）

ふだんの対策

（１）家具等の転倒/落下防止と避難/防災器具の用意



（２）緊急時速報のセッティング

緊急情報を速やかに発信できるよう、横浜市で『防災情報Eメール』を用意しています。

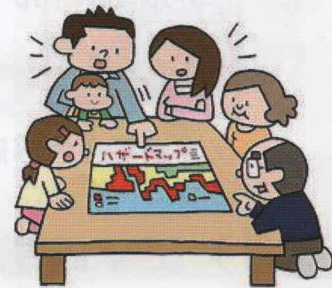
登録用アドレス entry-yokohama@bousai-mail.jp

（３）家族と防災/避難について話し合い

「いつとき避難場所」の場所や目的を再確認しましょう。

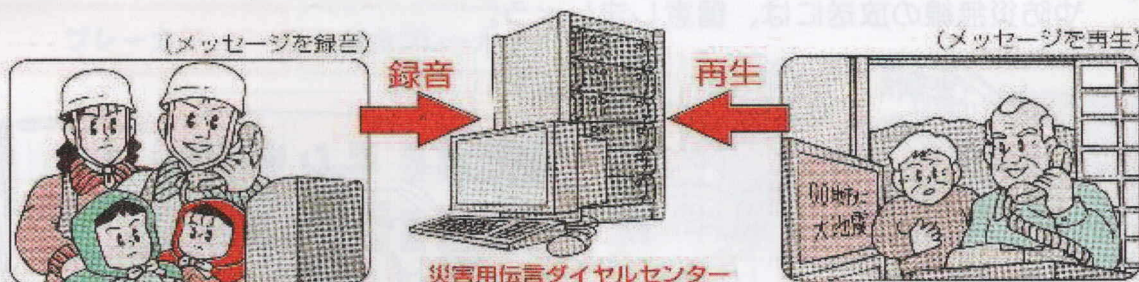
「いつとき避難場所」は災害が起こった場合は、身の安全を確保した後に町内会・自治会で安否確認を行うために集合する場所です。

事前の話し合いでは、それぞれの生活時間帯に合わせてさまざまなケースを想定し、避難や安否確認方法を相談しておきましょう。



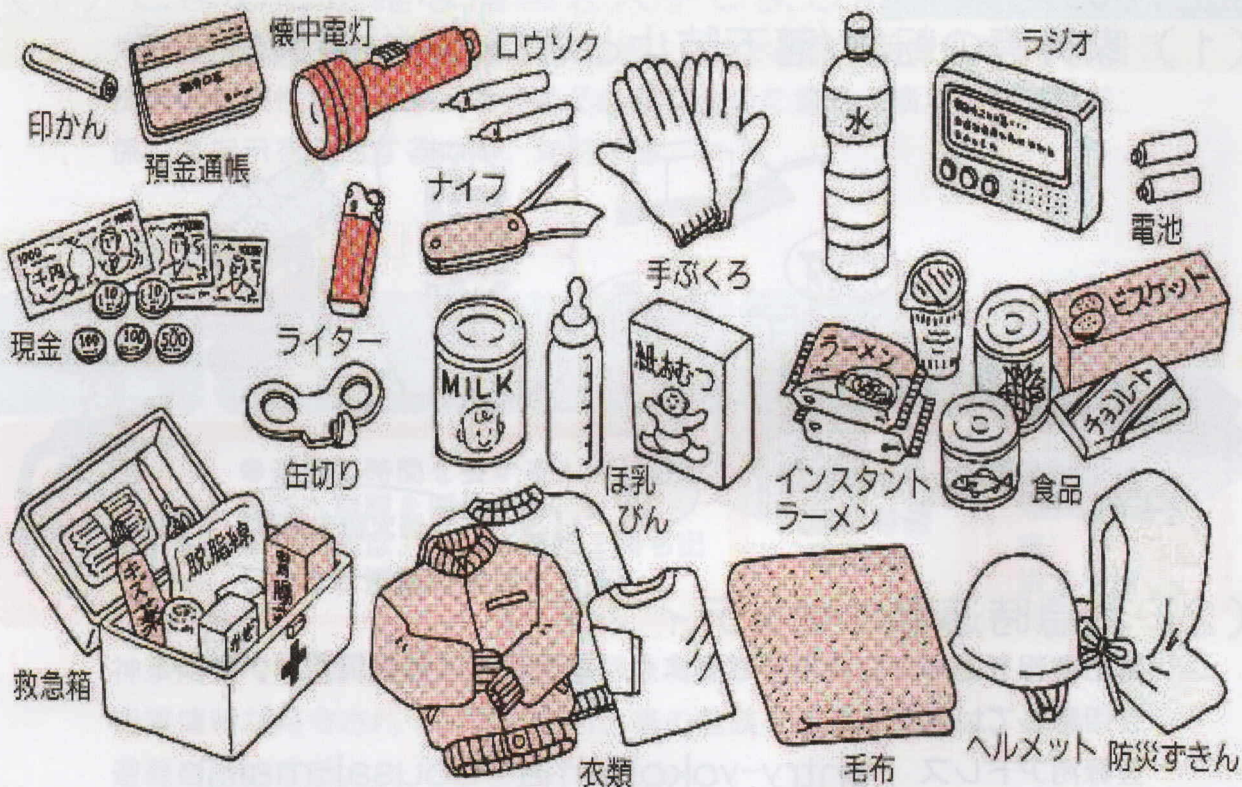
家族との安否確認をしておきましょう。

171+1+（自分の家の電話番号）



171+2+（自分の家の電話番号）

(4) 災害時備蓄と非常持出品の準備



災害時に意外に役立つ

家族の写真	底の厚いスリッパ・靴	笛
ガムテープ	ゴミ袋	ふろしき/手拭
キャンプ用品	レジ袋	テレフォンカード
食品用ラップ	ウェットティッシュ	新聞紙
アルミホイル	マスク	携帯電話用蓄電池
ポリタンク	常備薬	

常備品を含み最低限3日間程度の飲料水や非常食等を備蓄しましょう。

(5) デマに惑わされない

ラジオの報道に注意して、都筑区役所、消防署、警察署などの情報や防災無線の放送には、留意しましょう。

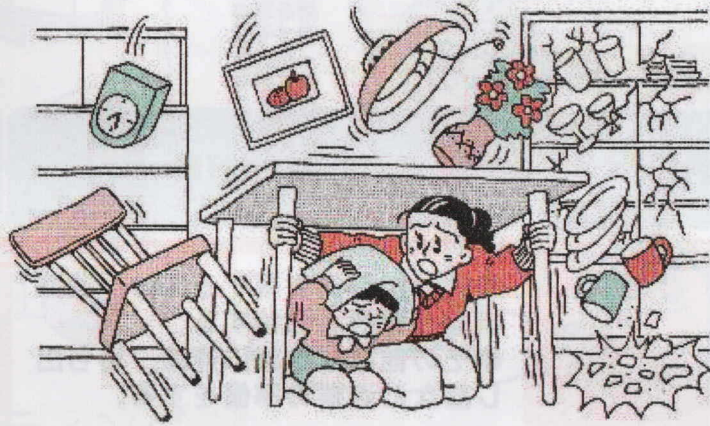


地震時の対応

(1) 机やテーブルに身をかくす

揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠しましょう。

座ぶとんなどが身近にあれば、頭部を保護しましょう。



(2) 非常口の確保

揺れがおさまるまでは、周囲の状況を確認して慌てて飛び出さない。

揺れが収まったら、玄関などの扉を開けて非常脱出口を確保しましょう。



(3) 揺れがおさまれば、火の始末を

地震後に避難する場合は、ブレーカーを切ってから避難しましょう。

ガスの元栓は地震で自動的に閉止します。確認しましょう。



大雨/洪水の危険時の対応

(1) こまめに正確な情報を入手しましょう

気象庁/神奈川県より逐次雨雲の動き、河川水位情報等を入手しましょう。
災害の危険性が高まり、避難する必要が生じた場合、横浜市が避難に係わる指示を発令するので、対応する。

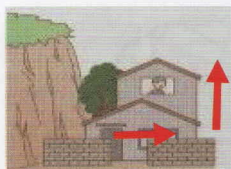
(2) 避難する

警戒レベル	とるべき行動	避難情報 (横浜市)	気象情報 (気象庁)
警戒レベル 3	<ul style="list-style-type: none">●避難に時間を要する人は、避難場所へ避難を開始する。●その他は、家族に連絡、持ち出し品など避難の準備をする。	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報 (土砂・浸水害) 洪水警報

神奈川県では鶴見川の氾濫警戒警報を発信する。

避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始する。

避難所(川和小学校)への避難が難しい場合は、水平避難・垂直避難する



室内
避難



水平避難



垂直
避難

(3) 避難は徒歩で、持ち物は最小限に

上下が分かれているレインコート等の動きやすい服装を心掛ける。

軍手やヘルメットを身に着け長靴ではなく、ひも付きの運動靴を履く。

廻りの方に声掛け、施錠して戸締りしておく。

携帯品は、必要品のみにして、背負うようにしましょう。

浸水深10cm以上では走行に支障があるので、自動車での避難はしない。

河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避け、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落に注意する。

